

平成30年度 学校評価表 86 長野県池田工業高校(全日制)

学校教育目標		重点目標(中長期的目標)		今年度の重点目標	
日本国憲法に基づき、真理を学ぶ情熱と、自らの力で問題を解決する実践力と創造力に富んだ人づくりを目指す。		地域の工業高校として、創造力に富んだものづくり教育を推進し、生徒一人ひとりの伸長を目指し、地域に貢献する人材を育成する。 1 地域にひらかれた活動(本校の教育への理解と協働)を行う。 2 生徒一人ひとりに目を向け、きめの細かい指導を行い、個々の実力の伸長を図る。 3 教育内容の充実を目指し、課題に具体的かつ、実践的に取り組む。		1 科目、キャリアガイダンスを通して学科選択を含む自己実現の取組みを展開する。 2 学力向上、資格取得、自主活動の展開指導を図る。 3 始業前、放課後に学習支援対応を図り教科履修の充実を図る。 4 学校評価、授業評価を有効に活用し授業力改善に資する。 5 生徒一人ひとりの人権を尊重し、いじめのない安全・安心な環境づくりに努める。	
1 地域にひらかれた活動(本校の教育への理解と協働)を行う。					
基本方針					
(1) 地域の工業高校として信頼され、必要とされるような学校づくりを目指す。 (2) デュアルシステムの推進をとおして地域との連携を一層深める。 (3) 専門高校としての技術・技能を地域に還元していく。 (4) 広報活動の充実に努める。					
担当	活動の名称	対象	具体的活動内容・到達目標	期間	評価の観点
教務	・年間行事や日程の改善と調整		・各種行事やその運営を見直し、より教育的効果・資質向上が望めるような年間行事計画をたて、円滑に行えるように日程調整を実施する。	通 年	・各学期ごとに各種行事の反省を行い、それを踏まえ意見集約・反映を行えたか。 ・次年度への検討を速やかに行い、改善・向上を図ることができたか。
	・保護者、生徒、職員への連絡	保護者、生徒、職員	・緊急時の対応を含め家庭との連絡を密にするため、連絡網システム「オクレンジャー」の生徒、保護者、職員の登録数の増を図り有効に活用する。	通 年	・「オクレンジャー」の登録率を高められたか。 ・台風、Jアラート、大糸線の遅れなどの対応について、オクレンジャーにより、生徒、保護者に適切に連絡できたか。
	・ホームページの公開	一般、保護者、中学生	・ホームページを作成し、教育活動の紹介を通して、本校を知っていただき、特に工業科としての特色を理解していただく。	通 年	・学校の活動が報告できたか。
	・池田町広報「広報いけだ」掲載「池工だより」原稿執筆	池田町住民	・地域住民に向けて学校の活動を紹介し、理解していただくことを通して、地域に根ざした学校づくりを行う。	年2回	・工業高校としての活動が報告できたか。 ・地域における活動が報告できたか。
入 試	・第一回学校説明会	関係中学校職員	・新入生の様子を主に情報交換を行い連携を図る。 ・昨年度の選抜についての意見交換を行う。	6/4	・新入生の様子が伝えられ、生徒の情報交換と選抜についての意見交換ができたか。 ・本校のPRができたか。
	・中学生体験入学	希望中学生	・中学生に、本校の施設・設備を使って簡単な実験や実習を体験させることにより、工業高校に対する理解を深めさせ、進路選択に役立ててもらおう。	7/31	・本校の特色を生かした体験が出来るように計画ができたか。 ・中学生に本校の学習内容について関心を高めてもらえたか。 ・本校のPRができたか。
	・第二回学校説明会	希望中学生及び保護者	・本校を志望する中学生および保護者や、本校に興味のある中学生や保護者に、学校の様子やシステム、工業科の内容を伝え、進路選択に役立ててもらおう。	8/26	・本校の様子を伝えることができたか。 ・本校のPRができたか。
	・入試説明会	関係中学校職員	・主として選抜に関する説明を行い、中学校との連携を図る。	11/5	・選抜に関する本校の方針を理解してもらえたか。 ・本校のPRができたか。
	・公開授業日、公開授業週間	希望中学生及び保護者	・中学生と保護者に対し、平素の授業や実習、校舎、クラブ活動を見学する機会を設け進路選択に役立ててもらおう。	10/1 12/3-7	・本校の様子を伝えることができたか。 ・本校のPRができたか。
生徒会	・池田松川美化計画	全生徒	・信濃松川駅および学校周辺部の清掃を行う。	5月・10月	・駅、学校周辺を一般の人から見てきれいになってきたか。
	・池工祭福祉バザー	一般	・地域よりバザー品を収集し、販売した収益金を福祉施設へ寄付する。	7～8月	・地域の人の善意を、収益金という形に変えて、地域福祉に還元できたか。
デュアルシステム委員会	・池工版デュアルシステムの実施	3年生研修先、地域	・池工版デュアルシステムを推進し、専門的技術・技能の向上と職業観の育成を目指す。 ・次年度デュアルシステム受け入れ可能企業には生徒向けプレゼンテーションを依頼する。	通 年	・実習内容や生徒の状況などについて研修派遣先と十分な連携を図れたか。 ・研修により生徒が達成感や成果を得ることができたか。 ・情報の発信や提供が適切かつ効果的に行えたか。
	・推進協議会の運営	研修先、地域	・デュアルシステム推進協議会は、デュアルシステムの運営母体として、情報交換や連携の推進役を果たし、緊密な組織づくりに努める。運営委員会は年3回実施し、デュアルシステム受け入れ企業の情報交換ができるようにする。 ・推進協議会を通して、デュアルシステム受け入れ企業を積極的に増やす。	通 年	・定期的な推進協議会の開催により、相互理解と情報交換や連携を深めることができたか。 ・受け入れ企業、支援協力企業を拡大すべく、地元各機関に働き掛けができたか。 ・推進協議会で出された意見をデュアルシステム委員会でも反映できたか。
	・職業教育、キャリア教育の充実	全生徒、研修先、地域	・インターンシップや技能講習への参加を促し、生徒の職業観・労働観を育成し、進路意識の向上を図る。 ・機会を見つけて研修成果を公開する。	通 年	・キャリア教育係や教育課程委員会と連携し、キャリア教育の体系化を進めることができたか。
学校連携	・高大連携	大学	・6年目の連携協定校である諏訪東京理科大学工学部との授業を計画し、学習の効果を向上させる。	通年	連携が計画的に実施され、学習の効果が期待できたか。
機械科	・工場開放	地域	・地域企業と連携し、ものづくりスキルアップ事業へ協力を行う。 ・学校の設備を利用し、高度技術を持った方から技術指導を受ける機会を設ける。	4月～12月 通年	・作業環境整備を行い、事業への協力を行えたか。 ・地域の方とのつながりを持ち、生徒の意識が向上したか。
電気情報システム科	・電子工作教室	地域	・地域の小中学生、住民を対象に電子工作教室を開き技術を還元する。	年3回計画	・電気・情報系のものづくりによるおもしろさを体験してもらうことができたか。
建築科	・池工お助け隊	地域	・地域に公示し、家屋修繕・敷地整備などの依頼に応え、生徒が主体的に行動できるようにする。 ・学習した事柄を生かし、可能な範囲で要望に取組む。	4月～12月 通年	・自分たちの持てる知識・技術を地域に還元できたか。 ・地域の方々の要望に応えることができたか。

2 生徒一人ひとりに目を向け、きめの細かい指導を行い、個々の実力の伸長を図る。		
基本方針		
(1) 基礎学力の定着に努める。 (2) 進路実現につながる実践的な学力の向上に努める。 (3) 資格取得に向けた指導の充実を図る。		
教科科目	実施・実践内容・到達目標	評価の観点
国語科	・生徒が興味・関心を持って授業に取り組めるよう、教材選択や指導法などの工夫をする。 ・進路実現に向けて、必要な国語の基礎を身につけられるようにする。	・生徒が教材に興味・関心を持てたか。 ・基礎学力が身についたか。
数学科	・毎日の学習活動を通して、計算力と問題処理能力を身につけられるようにする。	・計算力と問題処理能力の向上ができたか。
理科	・自然現象に対する興味・関心を高め、理科に関する基礎的な知識を養う。	・実験、観察等に積極的に参加することができたか。 ・基礎知識が定着できたか。
社会科	・進路(就職や進学)を実現することができるよう、生徒の現状に適した内容で必要とされる常識や知識を身につけられるようにする。	・基礎学力が身についたか。
英語科	・基本的な文法や語彙を定着させ、基礎学力を身に付けるための指導を行う。	・文法及び語彙を理解させるための工夫ができたか。
	・プリントなどを使用し、生徒の学ぶ意欲を引き出せるような授業を行う。	・生徒の学力差を考慮しながら、プリントづくりや授業の工夫ができたか。
保健体育科	・生徒が主体的に運動を考え積極的に体を動かし、生涯を通じて運動に取り組める資質を養う。(体育)	・生徒の関心、意欲、理解度が高まったか。 ・主体的に考え体を動かすことができたか。
	・生徒がより興味・関心を持てる授業を展開し、自分自身で健康の保持増進に取り組める資質を養う。(保健)	・生徒の関心、意欲、理解度が高まったか。 ・さまざまな健康問題に対し主体的に考えることができたか。
家庭科	・実習を通して生徒に知識技術が身につくよう、基礎的な実習内容を工夫する。 ・生徒が実生活に目を向け、興味・関心を持てるような授業を行う。	・日常生活の中における問題に気づくことができたか。 ・問題を解決しようとする意識を持つことができたか。 ・実習を通して、知識、技術を身につけることができたか。
音楽科	・歌唱では、様々な表現形態による歌唱の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができるようにする。 ・楽器では楽器の音色や奏法の特徴を学び、演奏する楽しさを味わうことができるようにする。	・生徒が技能の向上にむけ目標を持って取り組むことができたか。 ・楽器の音色や奏法から、表現の多様さを感じ取ることができたか。
書道科	・古典の臨書・鑑賞を通じて書の基本を身につけ、一人一人の表現力を伸ばせるような授業を行う。	・生徒が教材に興味・関心を持って取り組むことが出来たか。 ・生徒に書の基本が身に付いたか。
機械科	・安全作業に心がけて実習における機械操作等の指導を行う。	・生徒が常に安全意識を持って作業を行うとともに、適切な機械操作ができたか。
	・産業現場等における見学、体験実習を行う。	・勤労観、ものづくりの感動、責任感が体得できたか。
	・生徒一人ひとりにあった資格取得の指導を行う。	・資格や各種検定試験の学習を通して知識を習得するとともに、進路への意識が高まったか。
電気情報システム科	・昨年度の座学、実習の整合、点検結果によりキャリアに見合った座学、実習テーマを実践する。	・系統立てた理解しやすい開発教材であったか。
	・基礎学力の定着、資格、検定などに向け個人や集団の指導を更に充実する。	・基礎学力づくりができたか。
	・備品の検査をし、修理と更新を推進する。	・備品の更新や整備を推進するために、関係機関に依頼できたか。
建築科	・教育課程の変更に伴い授業内容を見直すとともに、2級建築施工管理技士(学科)、2級建築士取得程度の学力向上に努める。	・授業の進度を生徒の進路と適合させ、学習内容を理解させることができたか。 ・授業の進め方を全職員で共有できたか。
	・各科目で指導目標、到達目標を設定し、個々の生徒の専門科目に対する興味・関心を持てるような授業を行う。	・建築に対する興味・関心を持たせることができたか。
	・実習、製図では座学との関連性を理解させる。 ・技術系・技能系の実習内容を充実させ、技術系の生徒は建築物の設計ができることを、技能系の生徒は技能検定3級程度の技能修得を目標とする授業を行う。	・製図、実習の学習内容を理解させ、課題や作品に根気強く取り組む姿勢をもたせることができたか。
一学年	・高校生としての自覚を持たせ、基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・進路について考えさせ、よりよい学科選択ができるようにさせる。 ・学校での節度ある生活態度、社会性・協調性を身につけさせる。	・遅刻・欠席・早退をしない規律ある生活をさせ、適切な挨拶や言葉遣いができるよう指導できたか。 ・将来の職業選択を見据えて、希望する学科選択をさせることができたか。 ・学校生活を通し、他者を尊重する姿勢を身につけさせることができたか。
二学年	・進路実現のための基礎学力の定着・向上を図る。低学力生徒への学習指導および向上心のある生徒をいかに伸ばすか各教科と連携した取組みを行う。 ・進路ガイダンスや進路講話を通して、生徒自らが進路選択、決定できるよう指導する。 ・各種学校行事やクラブ活動、生徒会活動を通して、協調性、行動力、自主性を養う。 ・資格取得に取組ませる。	・就職や進学に向けた学力が身についたか。 ・生徒が自主的に進路について考えられるようになったか。 ・各種学校行事やクラブ活動・生徒会活動において協調性、自主性がみられたか。 ・一種類でも国家資格を取得できたか。
三学年	・間もなく社会人となることを視野に、基礎学力、マナーの向上を図る。 ・卒業後の進路希望を明確化させ、実現に向けて多方面から指導をする。 ・最上級生としての自覚を持った、学校生活の中でのよきリーダーの育成を図る。	・日常的な関わりの中で、授業への取組み姿勢、身なり、言葉遣いなどを指導できたか。 ・進路についての学年集会、個人面談、三者懇談などの機会を生かし、各方面と連携を取りながら指導できたか。 ・生徒会活動、HR活動における様々な経験を通して、生徒の成長を促す働きかけができたか。
クラブ	・クラブ活動を通して生徒が社会性や協調性を身につけられるように支援する。 ・目標を捉え充実したクラブ活動を送れるように支援する。	・生徒が社会性や協調性を身につけられるよう支援できたか。 ・充実したクラブ活動が行えるよう支援できたか。
支援	・支援が必要な生徒への対応。	・特別支援が必要な生徒に適切な支援を行うとともに専門家による職員研修ができたか。

3 教育内容の充実を目指し、課題に具体的かつ、実践的に取組む。

基本方針

- (1) 基本的な生活習慣の確立と社会適応力の向上を目指す。
- (2) 教育課題を解決するための意識共有と機能的な組織づくりを目指す。
- (3) 全教職員参加の「活性化プロジェクトチーム」から出された提案をより多く活動につなげる。

領域	対象	実施・実施内容・到達目標	評価の観点	
教育 活動	教育課程	・H31年度生に向けた教育課程の検討を進める。	・課程通りの内容が検討できたか。	
		・進路に応じた選択科目の設定を行い適切な受講体制を整える。	・選択科目が、進路実現につながったか。	
			・選択科目説明会や担任からの説明が適切に機能したか。	
	進路指導	生徒の進路相談に充分対応できる態勢(学年会、教科会、HR担任との連携)の強化と進路指導室の充実を図る。	・企業や学校、公務員関係の十分な情報収集を図る。職業安定所と密接に連携する。	・進路指導に関する生徒への対応が充実していたか。
				・企業や公務員関係など職業安定所との連携と情報収集が充実していたか。
		キャリア教育	・学校と家庭や地域、産業界が一体となったキャリア教育の充実を図る。	・生徒一人ひとりの生涯にわたる多様なキャリア形成に必要な能力と態度の育成に向け、日々のさまざまな学習を通して必要な支援ができたか。
			・学校設定科目「キャリアガイダンス」により満足できる学科選択を行う。	・学科選択に関して、計画的に生徒や保護者に説明することができたか。 ・学科選択を行うにあたり、適切な内容を計画し実施できたか。
	学習指導	・社会に順応できる基礎学力の向上を図る。	・「0時間目」の内容を予定通り実施することが出来たか。 ・「0時間目」の補習が計画的に実施できたか。	
		・進学や就職、公務員の試験対策指導を行う。	・必要に応じて長期休業、放課後等の補習計画を立てることができたか。	
	生徒指導	・身だしなみや校則、挨拶など社会に必要なマナーやエチケットの継続的な指導を通して基本的な生活習慣の確立を図る。	・全職員、HR、学年、生徒会と連携し、生徒への定着ができたか。	
		・問題行動の未然防止に努める。	・家庭、地域関係機関、警察、担任、教科と連携を取り、生徒の状況把握と問題行動の未然防止の取組みができたか。	
		・交通安全指導の徹底を図るとともに、自転車保険加入率向上を目指す。	・立ち番指導等を通して、交通ルール・交通マナーを順守するように生徒に呼びかけや安全対策ができたか。 ・積極的な自転車保険加入の呼びかけができたか。	
	生徒会	・生徒会各行事が生徒会役員や生徒を中心に企画・運営されるよう支援する。	・生徒会役員や生徒が主体的に行事へ取組むことができたか。	
		・地域の美化活動に貢献できるよう支援する。	・通学路や利用駅のごみ拾い活動を行うことができたか。	
		・あいさつ運動や清掃活動など、活発な生徒会活動を目指す。	・生徒会役員や委員会を中心に積極的に活動を行うことができたか。	
	渉外	PTA	・総会は4月末開催として、農繁期を避け多くの会員が参加できるように配慮し、実施する。	・総会、授業参観等を通じて学校との連携及び強化ができたか。
			・委員会活動の活発化と会員の参加の呼びかけをする。	・諸行事への参加状況はどうだったか。
			・地区PTAを各地区ごとに実施し、保護者ときめ細かな連携を図るとともに参加率を高めることを目指す。	・各地区開催、参加数はどうか。
	人権 平和 教育	・憲法学習週間を実施(4/21～5/7)する。	・憲法や権利等について学び、平和の尊さ、人権の大切さを学べたか。	
		・10/25の映画鑑賞により、全校一斉の人権・平和学習を行う。	・人権や平和等をテーマに、生きることの大切さや平和を希求する心を持つ事ができたか。	
・平和学習週間を実施(12/3～12/14)する。		・過去の戦争と現在の世界で起きている紛争について学び、平和の尊さを学ぶことができたか。		
図書 ・ 視聴覚	・生徒が読書に親しみ、図書館を積極的に利用するよう働きかける。 ・朝読書、読書会を実施する。	・利用しやすい図書館であったか。 ・生徒が図書館に親しみをもてるような活動ができたか。		
	・図書館を利用した自主学習を支援する。 ・レファレンスサービスを充実させる。	・積極的に教科との連携を図り、生徒・職員が必要とする資料の収集・整理・保存ができたか。		
	・放送委員会と連携して、行事や日常の校内放送が円滑に行われるよう、放送機器の管理、運営を行う。 ・芸術鑑賞に対しての興味・関心を高めるべく働きかける。	・校内放送が聞きやすく、円滑にできたか。 ・芸術鑑賞が円滑にできたか。		
防 止 対 策	・スクールカウンセラーの紹介や心身の調整など、情報の発信により悩みやトラブルが相談によって解消できるよう取組む。 ・クラスや部活動などの集団でのトラブルへの配慮や対応を細やかにする。多方面からのフォローができるよう関係職員との連絡を密にする。外部の支援が必要かを検討し必要があれば速やかに対応する。 ・保健室との連絡を密にとり、学年会等で情報交換を行い、それらの情報を集約共有する。	・各クラス学年等からの情報の集約共有ができたか。 ・職員間の協力体制が整えられたか。 ・生徒の気持ちに寄り添い、悩みなどを相談できる環境を提供できたか。		
	・生徒一人ひとりが、自分の心と体の健康に関心を持ち、主体的に健康管理を行なえるように学習の場や情報提供等を行う。	・保健だよりを通じて保健情報を発信できたか。 ・外部講師などを活用し講演会などを実施できたか。		
保 健 衛 生 環 境 整 備	・学校環境衛生に関わる問題点について把握し改善を図る。	・学校医や学校薬剤師などと連絡を密にし、十分な連携を図れたか。 ・問題点などを把握し改善することができたか。		
	・災害予防計画書の見直しと内容の確認を行う。 ・年間2回の防災訓練の実施(5/31、10/24)を行い、生徒の防災意識の向上に努める。 ・地域住民の指定避難場所に指定されているため、町の防災担当と打ち合わせを行う。	・防災訓練時の避難時間の短縮と点検ができたか。 ・町の防災担当との連絡・連携ができたか。 ・日常的に危険箇所の発見し、改善の要求または校内で改修を行えたか。		